

度の校訂が加へられて居るのであらう。かく度々印行を重ねたに拘はらず、(三)以前は勿論、(五)以後に於ても其の中に少からず誤寫が存するので、余は常に之を遺憾に思ひ、機會あらば更に正しき印本を公けにすべきであると思つて居つた。然るに昭和十三年(一九三八)に至つて在北京のフックス博士が本書の上記諸版の大部分と關係諸論文とを参照して作つた校訂本が、獨文の翻譯と共にプロシヤ學士院哲學・歴史部の報告(Sitzungsberichte der preussischen Akademie der Wissenschaften. Phil.-hist. Klasse). に載せられ、翌年その別刷の Hwei-ch'ao's 慧超 Pilgerreise durch Northwest-Indien und Zentral-Asien um 726 と題して出版されたものを、昨年に至つて同氏から寄贈せられた。本書殘簡全部の翻譯は始めての事であり、甚だ注意すべき事業であるが、今仔細に之に觸れる暇を有しない。たゞ本文の校訂だけについていへば、從來の諸本を参照しただけに、其の何れの版にも優つて居り、敦煌出土の天下の孤本往五天竺國傳の殘簡は茲に始めて原本に最も近い文句を流布せられることになつたのであつて、學界の幸慶と謂はねばならぬ。併し乍ら原本には行・草體の文字が併せ用ひられ、且つ汚損して鮮明を缺く所もあるので、此の校訂本にも尙ほ且つ多少の誤が存するやうに思ふ。加之此の抜刷は我が國に於ては流布の範圍も極めて狭いので、旁々余は茲に更たためて原本を出來得る限りその儘に印出し、學者の研鑽に資したいと思ふ。

從來刊出された諸本は大概フックス博士に利用されて居ることであるから、茲には只だ同氏の校訂本の文字中疑義ある箇所だけに附註して今本の據るべきを明らかにすることとする。尙ほ原本の行・草體の文字若しくは當時の慣用文字等は印刷の便宜上疑無き限り楷體に改めた。原本は卷子本で、引用の際に其の箇所を示すに不便であるか